

小松市ライドシェア（能登半島地震被災者支援）に対する寄付及び能登半島地震二次避難者ドライバーの運行開始について

発表日：令和6年3月27日
小松市行政管理部地域振興課

小松市では、令和6年3月16日の北陸新幹線小松駅開業を機に、本市を訪れた方々や市民の利便性向上に加え、能登半島地震で被災された二次避難者の方々の移動を確保するため、2月29日からタクシーが不足する夜間の時間帯（17時～24時）に道路運送法第78条第2号による自家用有償旅客運送制度を活用した小松市ライドシェアの運行を開始しました。

2月29日から3月2日までの3日間は、「復興ライドシェア」と銘打ち、能登半島地震で被災された二次避難者の方々に対し無料でご利用頂きました。

この間、20件、延べ43人の方にご利用頂きましたが、ご利用頂いた方から「能登は公共交通が少ないので、ライドシェアを能登でも実施してもらいたい。」とのご意見を頂戴しました。

これを受け、能登半島地震の被災者の方々の移動支援として無料でのご利用を継続するとともに、小松市での生活支援と今後、能登地方で自治体ライドシェア等の移動手段が導入された場合、ドライバーの確保が速やかに実現できるよう、小松市ライドシェアのドライバー登録を希望される二次避難者の方にドライバーとして登録頂き、実際に運行业務を担って頂く機会を提供することとしました。

このたび、本事業の趣旨にご賛同いただいた前澤友作氏から、1千万円の寄付に関する申し出を頂きました。前澤氏は、能登半島地震で被災された方々の移動の足の確保、能登地方の復興を願い、復興ライドシェアに最も早く支援のお話を頂きました。

このような寄付により、能登半島地震の被災者への支援並びに能登半島の復興への支援に、小松市として心から感謝申し上げます。

小松市では、能登地方からの二次避難者の移動支援や生活支援を、小松市ライドシェアを通じて引き続き行ってまいります。更には、自治体ライドシェア制度が将来的に能登地方にも広がり、小松市で活躍したドライバーが能登に戻り自治体ライドシェアの普及の一翼を担うことを願っております。小松市も全力で応援してまいります。

小松市ライドシェア（復興ライドシェア）への寄付について

（1）寄付の申し出

前澤友作氏（まえざわ ゆうさく）

※実業家、株式会社Z O Z O創業者、株式会社カブ&ピース代表取締役社長

（2）寄付額

1, 0 0 0 万円